

氏名	魚 川 正 美
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1324 号
学位授与の日付	昭和57年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Phenytoinによる歯肉増殖症の発症機序に関する免疫学的 検討
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 折田薫三 教授 佐伯清美

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Phenytoin (Ph) を慢性投与した際に観察される歯肉増殖が、Ⅳ型アレルギーを基礎として発症し得るか否かの検討を主な目的として本研究を行った。

合成した p-aminophenytoin と BSA とを coupling させ、これ (BSA-Ph) を抗原とし、FCA, FIA を adjuvant としてウサギを感作し、特異性の高い高力価抗 Ph 血清を作成した。この抗血清を利用した radio-immunoassay の Ph 測定限界は 2ng /tube であり、HPLC 法より 100 倍高い感受性を示した。FCA, FIA を adjuvant としてモルモットを BSA-Ph で感作し、4 週後に BSA-Ph, EA-Ph, BSA EA の生理食塩液を足蹠に皮内注射した際、48 時間後の腫張は前二者で著明であった。感作モルモットの腹腔より滲出細胞を集め、これを抗原と共に正常モルモットの皮内に注射したところ、Ph に特異的な遅延型アレルギー反応が惹起された。その浸出細胞を種々な抗原と共存させた際、BSA-Ph は特異的に滲出細胞の遊走を抑制した。Ph は血中濃度に比例して歯肉へ移行することが判った。

以上の所見は、Ph 投与後の歯肉増殖がⅣ型アレルギーを基礎として発症している可能性を強く示唆している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は Phenytoin 授与による歯肉炎の発生機序につき、合成 p-aminophenytoin と牛血清アルブミンの conjugate を抗原として高力価抗血清を得、抗原が血中濃度に比例して歯肉へ移行することを確かめ、モルモットを用いて種々遅延型アレルギー反応を検討したものであるが、本剤による歯肉増殖の発症にⅣ型アレルギー

一が強く関与していることを実験的に立証した点重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。